

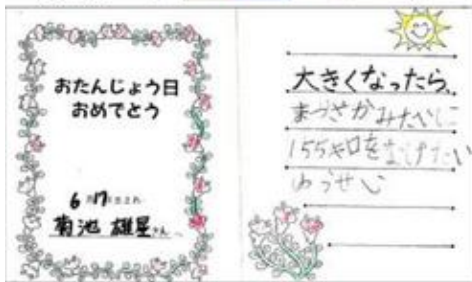
# 未来ノート

-202Xの君へ-

## 野球

# 菊池雄星

①菊池雄星(右)とバレーボールチームのコーチをしていた父雄治さん  
 ②8歳の誕生日に大きくなった「まつさかみたいに155cmをなげたい」と書いた11いすれも提供



### 小学2年 速い球へ憧れ

1991年6月、菊池雄星は盛岡市で菊池家の4人きよだいの3番目として生まれた。体重約4200gの大きな子。五つ上の兄が北斗七星にちなんで雄斗、三つ上の姉は南十字星からとって美南。3人目も星にちなんだ名前から「雄星」と名付けられた。やんちゃで、物心ついた時から徒歩や自転車ですぐで遠くへ遊びにいった。父の雄治さん(58)も母の加寿子さん(58)も3度目の子育てで「命に危険が及ぶようなこと以外は好きにしていな」と余裕もあった。

松坂みたいに

プロになる宣言

「本の虫」自信に

「好き」が大事

「サッカーをやりたい」。小学1年で突然言い出した雄星に両親は慌てた。兄が野球、姉はバレーボールをやっており、その上にサッカーとなれば送り迎えや応援はできない。すぐにスポーツ用品店に連れて行き、「野球しかないよ」とクラブとバットを渡した。こうして野球を始めた雄星が最初に憧れたのは、松坂大輔(現中日)。小学2年、8歳の誕生日には「大きくなったら、まつさかみたいに155cmをなげたい」と書いた。「球が速ければカッコいいと思ってる」。小学3年で野球チーム「見前タイガース」に入った。

た。中でも、経験者の雄治さんがコーチを務めたバレーボールには熱心に取り組んだ。野球の練習が終わると、雄治さんが先に行っている4・5m離れたバレーの練習場へ「野球道具を背負って、笑顔で走ってきた」。だが学年が上がるにつれて、両立が難しくなってきた。野球の大会に途中まで出て、車中で着替えて午後にはバレーの大会に参加することもあった。「自分は一日中野球にいたいのに」と泣きながら着替えて行ったこともあった。加寿子さんも悩む息子の姿を覚えている。

◆「未来ノート」スクラップブックは、全国のASA(朝日新聞販売所)でお配りしています。インターネットの特設ページではイベントやスクラップブックについて詳しく紹介しています。「未来ノート 朝日新聞」で検索してください。

© 朝日新聞社 無断複製転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。